



大学院研究科 「修士論文審査における中間報告会」の開催

平成22年4月28日（水）に、本学201講義室で大学院保健医療学研究科「修士論文審査における中間報告会」が、大学院生、指導教員、学部生の多数参加の下、盛大に開催されました。

この会は、これから修士論文提出に向けて、現在の研究の進捗状況を把握するとともに、報告会を通じ院生間で研究目的や背景並びにお互いの研究内容を共有することで新たな視点を持つきっかけとなり、さらに、各先生方の熱心なご指導により専門的な視点や異なる領域からの視点により研究内容をさらに発展させるものです。

一方で、この報告会を行うことで院生同士が発表資料について事前に検討し合うなど、主体的に学び合う姿勢を身につけることができ、この能力を今後の現場で活かすことができると思っています。

今回は第1期生9名（臨床検査学分野4名、看護学分野5名）から、右表のような内容で報告されました。すでに大部分がまとまっている学生、まだこれからという学生など、報告のレベルは様々でしたが、院生各自にこれから論文をまとめていくという意欲と前向きな姿勢を感じることができました。

臨床検査学分野長 加藤 亮二

発表題目名（発表順）

1. 臨床検査学分野

- ①好中球のミクロペルオキシダーゼ(MPO)の放出活性と酸化障害に関する研究
- ②造血器悪性疾患の治療中に発症したFebrile Neutropeniaにおける細菌感染症の指標としてのプロカルチトニン測定の有用性に関する研究
- ③体腔液細胞診におけるEGFR免疫染色を用いた腺癌と反応性中皮の鑑別
- ④全身性自己免疫性疾患（強皮症）における抗トポイソメラーゼⅠ抗体(Scl-70抗体)とリンパ球との関連性について

2. 看護学分野

- ①地域住民の精神障がい者に対する認知構造
—ステイグマのない共生社会実現に向けての啓発活動をめざして—
- ②看護専門職者の男性と女性における性アイデンティティの構造
- ③乳幼児に虐待をする母親の母性意識と母乳育児の関係
- ④疾病をもつ高齢者の健康観に関する研究
- ⑤精神科看護師の支援行動に関する研究

大学行事

戦略的大学連携支援事業『香川総合医療教育研究コンソーシアム』

平成22年6月9日に、戦略的大学連携支援事業の一環として、香川大学医学部医学科2年生（約100名）の授業科目である「保健指導・カウンセリング・チーム医療の基礎」の講義を、本学教養部の細萱茂美教授と看護学科の國方が担当しました。本授業は遠隔講義システムを用い香川大学医学部と徳島文理大学へ同時配信したもので、タイムリーに質疑応答が展開され、学生の学びを深めることができました。アンケート調査の結果、78%の学生がこの講義を聞いてチーム医療への関心が高まったと答えました。講義後は、看護学実習と臨床検査実習を体験・見学し、「他職種の学習内容に触れたことは、チーム医療の理解に繋がった」という多くの意見をいただきました。また、6月5日に「チーム医療を考える三大学学生のつどい」が開催されました。高松赤十字病院の中谷美子看護師長による「看護師からみたチーム医療」の特別講演を受けた後、160名の学生が10人程度でグループディスカッションを行い発表しました。これら一連の活動は、チーム医療の考えを早期に植えつける本事業の目的に十分沿ったものでした。

看護学科 教授 國方 弘子



ボランティア活動『思春期ピアカウンセリング』

「ピア」とは仲間・友人であり、ピアカウンセリングとは仲間相談活動という意味です。思春期の子ども達にとって、信頼でき生きる価値観を共有する友人や同年代の仲間による影響は大きいといえます。性について正しく学んだ若者が、間違った知識やマスコミの性情報に振り回されている仲間たちに、正しい知識を提供し、性や生に関わる悩みや行動の選択と一緒に考えながら、自分探しやなりたい自分に向き合うこと、自分を大切にしながら意思決定していくことをサポートする活動がピアカウンセリングです。

香川県では県の委託を受けた香川県看護協会が中心となり、平成16年から県内の大学・専門学校の看護学生を対象に、ピアカウンセラーを養成し活動を開始しています。「セクシュアリティに関する知識」「カウンセリングの基本的スキル」など計30時間を受講し認定された看護学生が、県内大学や高校、高松トキワ街ミッド・プラザで活動しています。本学では、現在26名の看護科学生が、ピアカウンセラーとして認定され、自主的に勉強会でスキルアップを重ねながら、地域専門職と協働しボランティア活動を継続させ活躍しています。この看護学生の力を借りた思春期ピアカウンセリング活動を含めた健全母性育成事業に対して、平成21年には、保健・衛生・福祉分野の最も権威ある賞として名高い第61回「保健文化賞」を受賞し、厚生労働大臣表彰状と第一生命保険相互会社感謝状をいただきました。

今後、ピアカウンセラーの力が發揮できる活動の場の拡大と、ピア講座を受講した高校生やピアカウンセラーと語り合った若者が、学校の友達や仲間に正しい情報を広げ、自分を大切にした行動選択ができるよう活動を支援していきたいと思います。興味のある看護学生の皆さん、いつでも研究室にお訪ねください。お待ちしています。

看護学科 講師 竹内 美由紀



ピア講座



養成講座

オープンキャンパス

7月24日（土）の午後、オープンキャンパスが行われました。県内外より高校生289名、保護者107名と多数のご参加をいただき、ありがとうございました。今年は看護学科、臨床検査学科ともにスタンプラリーで学内見学を実施し、充実した実習室を見学できてよかったです、在学生や先生方とともに様々な体験ができる興味関心が深まった、先輩たちと相談できてよかったですなど、好評を得ることができます嬉しく思っています。来年度もさらに工夫して実施する予定です。また、10月16日に行われる橄榄祭（大学祭）においても、在学生や教員によるミニオープンキャンパスを行いますので、本学に興味のある方はぜひお越しください。

一人でも
多くの方が
本学を受験されることを
期待しています。



質問・相談コーナーの様子

公開講座

8月24日（火）に公開講座「健やかに生きよう」が香川県社会福祉総合センターで開催されました。今回は、昨年の第一回に引き続き高松市の中心部で開催し、「老い、ともに生きる」講師：横川絹恵副学長、「活性酸素と食と健康」講師：加太英明教授の2講座を開講し、71名の方が受講され、好評のうちに終了しました。

今年度は、11月5日（金）に本学においても開催いたします。詳しいことは、大学ホームページや県広報誌などで御案内しますので、興味ある方は、ぜひ一度お越しください。



研究紹介

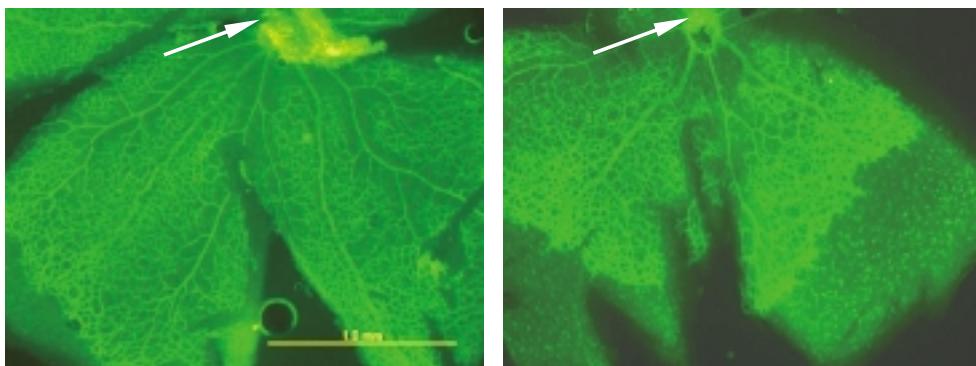
寿命に関わる蛋白質の一つの機能

日本では今後数十年にわたり高齢者が増え続け労働者人口が減っていくことが避けられないことから高齢者が健康を維持しながら社会に貢献していくことが必要になると思われます。一般に生物は寿命が長いほど様々なストレスや病気に対して抵抗性が高いことが知られているため、寿命を延ばす物質や方法についてこれまでに多くの研究が行われてきました。特にインシュリンや、それに類似したホルモンの働きが抑えられると寿命が伸び、さまざまなストレスに強くなることが発見され大変注目されています。インシュリンの働きが悪くなると糖尿病になってしまうので不思議な感じがするのですが多くの生物で正しいことが分かってきています。この現象に必須の物質がFoxOという蛋白質群です。

私達の研究グループはこの蛋白質群の一つであるFoxO1の体のなかでの働きを調べてきました。その過程でFoxO1を先天的に持たないマウスは血管をうまく作れないために胎児の初期に死んでしまうことを見いだしました。現在は、なぜ血管がうまくできないのか、また生後に新たに血管ができる場合にもこの蛋白質が必要なのかを特殊なマウスを用いて調べています。図は生後7日のマウスの目の網膜という部分の血管の成長の様子を表しています。左の図の普通のマウスと比べて右の図のFoxO1がないマウスでは血管の成長が悪くなっています。

糖尿病にともなう網膜症やがんなどでは病気の進行とともに血管が新たにできてきますので血管の成長を抑えることで病気の進行を止められる可能性があります。将来的には、このような病気の治療に研究結果をいかしていけたらと思っております。

教養部 教授 古山 達雄



生後7日のマウスの網膜血管の成長

左：正常、右：FoxO1 を欠いたマウス

図の最上部中央付近の網膜の中心（矢印）から広がる明るい緑の網目が成長している血管を表す。

図書館便り

図書館入り口を入って正面の雑誌架の横に、新着図書コーナーを設けています。毎月一日には、その前月に受け入れをした様々な分野の図書を、約200～250冊請求記号の順に並べています。本の背には小さな丸いシールを貼付して、今月の新着図書であることがわかるようにしています。貸出もできます。次月になると、新たに受け入れた図書が並び、前月の図書はそれぞれの分類の書架に配架されます。

毎月の新着図書を楽しみにしている方もいます。皆さんもちょっとこころをとめ知層を高めてみてはいかがでしょうか。



サークル紹介

少林寺拳法部

少林寺拳法部は週3回の練習日の内、2回は徳島文理大学香川校と合同練習を行い、他の大学の垣根を越えて交流を深め、日々練習に励んでいます。

年に2回大会に出場する機会があり、部員の殆どが積極的に参加して日頃の練習の成果を発揮しています。6月に行われた県大会では優秀賞と入賞を頂きました。また、春には多度津にある本部で行われる合宿にも参加し、全国から集まる様々な大学生と交流しています。今年で創部10周年となります。これからも先輩方の築いてきた少林寺拳法に皆で一所懸命取り組んで行きたいです。

看護学科3年 谷北 明沙美



健康メモ

ご存じですか？経口補水療法

成人では1日約2～2.5Lの水分を摂取し、同じ量の水分が体から失われているため、体の水分量はほぼ一定に保たれています。このバランスが崩れて、体の水分が減ってしまうことを「脱水」といいます。脱水が進むと酸素・栄養素・老廃物を運んだり、体温を一定に保ったりすることが次第に出来なくなり、頭痛、倦怠感、意識障害などさまざまな症状が出て、放置すれば命にもかかわります。したがって、脱水はとても怖いのです。体重の2%以上の水分を失うと運動能力に影響が出始め、3%以上失うと症状が出てくるといわれています。

では、どのような時に脱水になりやすいのでしょうか？周りに水分がない時や口から水分をとることが難しい時はもちろんですが、熱が出た時、おなかの具合が悪い時、吐いてしまう時、たくさんの汗をかいた時など、体から水分がたくさん出てしまう病気や状態になった時に脱水の危険性が高まります。また、何もしなくとも1日に約900mLの水分が私たちの体から蒸発しています。

体から水分を失う場合、そのほとんどが汗、胃液（嘔吐）、腸液（下痢）などの体液として失われます。体液には、必ずナトリウムやカリウムなどのイオン（電解質：塩分）が含まれています。ですから「脱水」とは体から水分だけでなく塩分も失われているのです。

脱水の予防・治療は、「水分と塩分を補給する」ことが必要です。この時、水分だけを補給し続けると、塩分が不足したままなので、体液が薄くなってしまい、脱水がなかなか改善されません。「脱水には水分と塩分の補給が必要」これがポイントです。

表1.ガイドラインの組成とOS-1,経口補水液、市販飲料の組成

経口補水液の電解質組成

成分	Na ⁺ (mmol/L)	K ⁺ (mmol/L)	Cl ⁻ (mmol/L)	Mg ²⁺ (mmol/L)	UO ₂ (mmol/L)	乳酸(%)	グリコゲン(%)	脂肪酸(%)
WHO規格2002版 ^a	75	20	65			30	1.35	
WHO規格1979版 ^b	90	20	80			30	2.0	
ESPGHAN ^c	60	20	60			30	1.6	
AAP ^d	40~60	20	「陰イオン濃度」(総固形物中モル比±2)を超えない			20~25		
オースワン(OS-1) ^e	50	20	50	2	2	31	2.5(1.8)	
スポーツドリンク ^f	8~23	3~5	5~18				5~10	
ミネラルウォーター ^g	0.04~0.04	0.01~0.48						

脱水対策には水分と塩分を

図1.経口補水液の使用シーン(例)



重度の脱水には点滴が行われます。点滴は血管に直接水分と塩分を補給できる優れた治療法です。しかし、医療器具や点滴をする技術が必要ですし、受ける側の肉体的負担もあります。海外では、口から水分と塩分を補給するというシンプルな治疗方法である「経口補水療法」が普及しています。経口補水療法に用いるのは、必要量の塩分を含み、吸収が早くなるように工夫されている「経口補水液」という飲料です。海外では経口補水療法に関するガイドラインが作られ、重度ではない脱水の場合は、経口補水液を飲むことが推奨されています。経口補水液はいわば「飲む点滴」なのです。日本ではまだ十分普及していませんが、経口補水液をうまく利用することによって水と電解質バランスをとつて脱水を防いだり、治療したりできるのです。表1に経口補水液の組成、図1に経口補水療法の使用シーンを示しました。脱水では水分と塩分が不足しているので、水やお茶・スポーツドリンクでは電解質バランスが保てないことがありますので注意しましょう。最近、日本でも海外のガイドラインに適合し、厚生労働省より脱水に対する効果が認められた経口補水液（オースワン；OS-1）が調剤薬局やドラッグストアで販売されています。経口補水液をご家庭で常備し、いざというときに脱水を未然に防ぐことをお勧めします。

看護学科 教授 秦 幸吉

今後の行事予定

10月16日土 橄欖祭(大学祭)

10:00～17:00 テーマ「繋～つながる～」

入学試験

- 11月20日(土) 推薦入試(看護学科・臨床検査学科)
2月25日(金) 一般前期入試(看護学科・臨床検査学科)
3月12日(土) 一般後期入試(看護学科)

11月5日金

公開講座

「健やかに生きよう」



香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1

Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202

E-mail : hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>

